



© UNICEF/NYHQ2008-0186/Photographer Unknown (撮影者不明)

子どもの死亡率： 静かなる緊急事態の猛威

—バンガード（ナイジェリア）、2008年3月14日

小さな子どもの生存と発達

経済が後退し、日常品の価格が上昇すると、多くの場合、女性と子どもは、最初に十分な栄養を摂取できなくなり、保健ケアを受けられるのは最後になってしまう。

2008年、子どもと母親の生活状況は、収入の減少と物価の上昇という二重の打撃を受けた。誰を、そして何を「救う」のか、という議論の中で、ユニセフは一貫して、毎年5歳の誕生日を迎える前に900万人以上の子どもたちが命を落としている、この人類の可能性における損失を世界は見過ごしてはならないという信念に立っている。これらの死の多くは、子どもの生存と発達に投資することで防ぐことができるものなのである。

乳児と母親

子どもの生存を妊産婦保健と分けて考えようとするのは、木を根から切り離そうとするのと同じである。ミレニアム開発目標4（5歳未満児死亡率を3分の2削減する）とミレニアム開発目標5（妊産婦死亡率を4分の3削減する）は切っても切れないものである。現状を考えたとき、2015年までに目標を達成するためには、妊産婦・新生児保健の前進に拍車をかけなければならない。2008年、ユニセフはパートナーと共に、包括的な保健ケア・サービスを支援することで、低コストで大きな効果がある子どもの生存に関する支援拡大を図った。

例えば、コンゴでは、保健・社会問題・家族省が、ユニセフや主要な宗教組織とパートナーシップを組み、全国的なコミュニケーション・イニシアティブである *‘Les gestes qui sauvent’* (ライフセーバーズ) を設立した。その目的は、子どもの養育者や未来の母親たちに、小さな子どもたちを養育することの大切さを教えることにある。このイニシアティブでは、病気の蔓延を防ぐための簡単で廉価な方法を推進する。ここで推奨されているのは、生後6カ月間の完全母乳育児、殺虫剤処理を施した蚊帳の中で寝ること、手洗いなどである。7月には、民間の携帯電話会社であるWarid (ワリッド) がパートナーシップに加わり、*‘Téléphone qui sauve’* (ライフセービング電話) を開発した。これは子どもたちが病気になったとき、無料ホットラインで母親たちにアドバイスを提供しようというものである。

2008年、南アジアで乳児と母親たちのための勝利が見られた。妊産婦・新生児破傷風がバングラデシュで、またインドの2つの州でも根絶されたのである。

予防接種キャンペーン

ワクチン接種とビタミンA補給を合わせた包括的なキャンペーンを通じた子どもたちへの支援は、費用対効果が高く、何百万もの命を救い、人類の可能性を広げることにつながる。2008年、ユニセフとそのパートナーは、24カ国で予防接種と栄養補給活動を行い、50カ国で「子ども保健デー」を実施した。

ユニセフが支援するはしかのキャンペーンは、ニジェールで290万人、パキスタンでは約3,500万人の子どもたちに支援を提供した。はしかと風疹の混合予防接種イニシアティブでは、中東・北アフリカ地域ではしかの確認症例数が最も多いレバノンで、9カ月から14歳までの子ども全員に予防接種を実施した。ユニセフと世界保健機関 (WHO) の支援の下、イラクでは5歳未満の子どもほぼ全員に対してポリオ予防のワクチンを投与した。2008年、ユニセフは、世界ポリオ撲滅イニシアティブの創設メンバーとしての貢献が認められ、「ポリオ撲滅貢献の殿堂」入りを果たした。

栄養

食糧価格の高騰によって長年かけて築いてきた栄養分野での成果が相殺されてしまう恐れがある。「アフリカの角」地域で

続く干ばつなどのような災害が重なると、子どもの栄養不良、ビタミン・微量栄養素の欠乏症、死亡につながる可能性がある。

エチオピアで、ユニセフはすぐに口にすることができる栄養補助食品 Plumpy' nut® (プランピーナッツ) を4,830トン調達し、急性栄養不良に苦しむ推定20万人の子どもたちの悲劇を回避することができた。マラウイでは、保健省、ユニセフ、世界保健機関 (WHO) が協同で、ビタミンA補給剤を6～59カ月の子もたち200万人以上に、虫下しを12～59カ月の子もたち160万人に提供した。ベトナムでは、6～39カ月の子ども全員と、18の貧困州に住む6～59カ月の子ども全員に、ビタミンAの補給を2回行った。

アドボカシー

現場での活動に加え、ユニセフは、その国際的評価、データに基づいた報告書、コミュニケーション・キャンペーン、ハイレベル会合を利用して、子どもの生存と発達に投資するよう指導者たちの支持を集める活動を行っている。

ユニセフの水と衛生面でのリーダーシップは、国連が制定した国際衛生年で発揮され、適切な衛生施設 (トイレ) を利用できずに生活している25億人の窮状を強く訴えた。ユニセフは国連水関連機関調整委員会 (UN-Water) 「衛生に関するタスク・フォース」をとりまとめ、これが初年度となる「世界手洗いの日」 (Global Handwashing Day) の実施に寄与した。これには82カ国から2億人を超える子どもたちが参加した。

ユニセフは、『世界子供白書2008』と共に、子どもの生存に特化した地域報告書、妊産婦死亡に関する *“Progress for Children, Vitamin A Supplementation: A decade of progress and Sustainable Elimination of Iodine Deficiency”* を発行した。4月に南アフリカのケープタウンで開かれた「カウントダウン2008会議」で、ユニセフと多くのパートナー機関は、*“Count-down to 2015: Maternal, newborn and child survival”* (2015年に向けてのカウントダウン：妊産婦・新生児・子どもの生存) を発表した。

結果重視の調査に支えられた現場での懸命な努力が、圧倒的な貧困、経済の破綻、物価の上昇といった状況にもかかわらず、子どもの生存と発達における前進を支えたのである。



© UNICEF/NYHQ2008-0045/Turnley

子どもの死亡の 要因を解明する

シエラレオネでは、赤ん坊のほぼ6人にひとりが1歳になる前に命を落としていて、5歳の誕生日を迎えることができない子どもは、4人にひとり以上となっている。妊産婦の死亡もよく見られ、出生10万人あたり約1,800人の女性が出産時に命を失っている。これに対し、スウェーデンの女性が出生の際に命を落とす生涯リスクは17,400人にひとりにとどまっている。もしこれがシエラレオネだとしたら、8人にひとりまで跳ね上がるのである。

このような悲しい状況を生み出す原因はたくさんある。10年にわたる内戦は国に打撃を与えた。2002年に平和は訪れたが、紛争後の復興期に質の高い保健ケアを提供することが大きな課題として残っている。それは、無料の保健サービス、インバクトが大きくて費用対効果の高い支援、信頼できる輸送手段といったものをなかなか利用することができないからである。医薬品、備品、供給物資、研修を受けた保健の専門家が慢性的に不足していることが、この事態に深刻な拍車をかけている。研修を受けたスタッフがいたとしても、給料が低かったり、ストレスが大きいために、士気が低いことがしばしばある。

家族の中での女性の地位の低さも、子どもと妊産婦の死亡率の高さに関係している。早婚も普通のこととして行われ、女性の約56%は18歳未満で結婚し、27%は15歳未満で結婚している。女性性器切除（FGM）は、長く続けられている伝統的習慣である。女性は、家族内の意思決定にはほとんど口出しすることができず、自らや子どものための保健ケアについてでさえ、自分で決定することができない。

世界的な日用品の価格高騰は、子どもと妊産婦の生存にさらに重圧をかけている。シエラレオネは、現在起きている食糧価格の高騰に甚大な影響を受けている。家庭は所得の52%を食料に費やしている。国際的な財政危機もシエラレオネに大きな負担となっているが、その主要な理由は2つある。国自体が海外の支援に頼っていることと、多くの家族が海外——特に米国と英国——に住む親戚からの送金に依存していることである。

シエラレオネはこうした無数の難題に多方面から取り組んでいる。政府は、ユニセフ、国連人口基金（UNFPA）、世界食糧計画（WFP）、世界保健機関（WHO）の支援を受け、2008年2月に「リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）と子ども保健戦略計画」を打ち出した。その目標は、子どもと妊産婦の保健・栄養政策を強化すること、5歳未満の子どもと出産適齢期の女性の保健・栄養サービスを統合すること、子どもと妊産婦の生存に向けて養育者とコミュニティの価値観、姿勢、行動様式、習慣を改善することである。

計画を支援するために、ユニセフとそのパートナーたちは、6つの地域で720人の保健サービス提供者を対象に、また、10の地域で1,200人のコミュニティ保健員を対象に、包括的な子どもの生存についての研修を実施した。さらに、重度の急性栄養不良の治療をコミュニティ・レベルで実施できるように、355人の保健スタッフを対象に研修を行い、13の地区で67の外来栄養補給センターを設置した。地区が主導となって実施する「包括的妊産婦・子ども保健週間」が全国的に展開され、ビタミンAと虫下しの投与、破傷風ワクチンの接種、殺虫剤処理を施した蚊帳の提供、早期の子どもケアについての放送メディア向けの広告配信が実施された。緊急産科・新生児ケアの初めての全国レベルでの評価が12月に終了した。

妊娠が女性にとって恐怖ではなく、真に祝福できるものとなるよう、妊産婦と新生児の包括的な保健ケアを構築するためにシエラレオネは並々ならぬ努力をしているが、ユニセフは頼りになるパートナーとなっている。